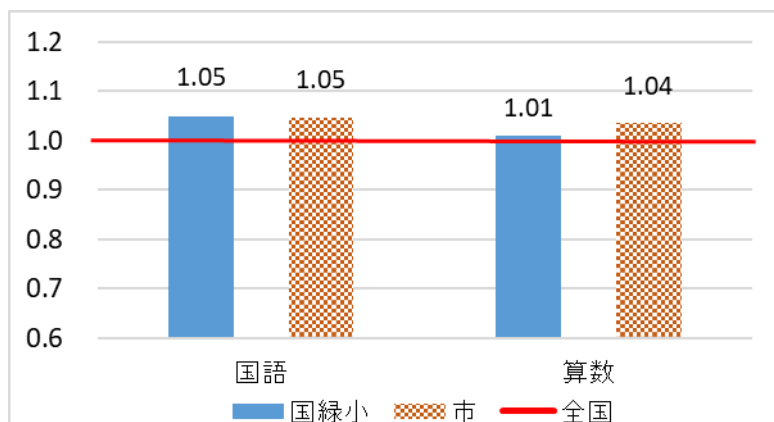


○調査結果（全国平均を1とした場合の平均正答率の比）



○調査結果についての分析、今後の改善方策

#### 【国語】

「話すこと・聞くこと」領域の「目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える」「目的や意図に応じ、資料を使って話す」問題において課題が見られた。一方で、「漢字を正しく使う」「文章全体の構成や展開を考える」問題においては全国平均を上回る結果であった。引き続き、自分の考えや思いを発表し合う活動を中心とした授業を通して、「話すこと・聞くこと」についてさらに高めていく。

#### 【算数】

「測定」領域の「二つのコースの道のりの差の求め方や時間の関係について考察する」、「図形」領域の「三角形の面積の求め方」問題において課題が見られるが、「数と計算」領域の「除法の結果について日常生活の場面に即して判断できる」「小数を用いた説明から比較量が示された理由を記述する」問題においては全国平均を上回る結果であった。引き続き、与えられた資料の特徴や傾向を読み取り、必要な情報から解答を導き出す力をつけるよう取り組む。

#### 【質問紙調査】

「学校に行くのは楽しい」「人が困っているときは、進んで助けている」では全国平均を上回った。読書に関する質問では全国平均と比べ良好な結果となっているが、家庭学習に関する質問では課題があり、引き続き学習習慣の定着に向けた指導を継続する。

○学力向上の取組

#### 【中学校区】

小学校での漢検の実施や専科授業・教科担任制の導入、さらに中学校教員による小学校への出前授業など、中学校区三校で連携した取り組みを行っている。小中学校の学習体制の段差を解消するシステムづくりや様々な会議を通して、各教科の課題や対策を共有し、校区の子どもの実態把握に努めている。

#### 【学校】

4・5・6年生での算数での習熟度別少人数指導、6年生での理科専科授業、5・6年生での英語専科授業、3～6年生の音楽専科授業など児童の個々の状況に応じたきめ細かな指導を行うとともに、タブレット端末等を活用した効果的な授業、ディベート、グループワークなど、話し合いや発表の活動を取り入れた「考える力」の育成を図り、学力向上に努めている。